

20世紀のトレース



坂本 裕太 (さかもと ゆうた)
東京電機大学 未来科学部 建築学科



埋め立てを広げて新しい土地を獲得したり、更地にして新しく建築物を建てるなど、今まであったものがはじめから無かったかの様にまちが更新されていく。

そんな荒々しい20世紀的手法は現在も続き、人はより豊かでキレイな環境を手に入れてきた。本計画の敷地である新木場も、機能が衰退した貯木場を埋め立て、観光地として再生する意向である。それに対して、既存の状態を写し取り、少しずつまちを更新していくトレースという手法を提案する。既存の製材所そのままに、倉庫には大学と住居を入れ、木材業を生業としたまちとして再生する。トレースはまちの人々の補修・改修・増築といった上書き行為により日々繰り返され、ずっと生き続けるまちとなる。



講評

まちの人々の補修・改修・増築といったいわゆる「上書き行為」を「トレース」という手法で組み立てるというコンセプト自体、作者は素晴らしい視点を持っている。また、なんでも新しくする都市の更新システムに疑問を投げかけ、20世紀を大事にしながらも、20世紀を写し取ったなかで、少しずつ21世紀と未来に向かうという考え方は、強く共感できる。

設定した敷地の新木場は今も「貯木場の暮らし」があふれている。そこに観光という要素を加え、建築群を串刺しする空間（街のギャラリー）は、地域の特性に知的刺激を与え、とても魅力的である。これによって、まちは、横断的なコミュニティが、より一層育まれ、にぎわい活性化するだろう。

さらなる展開として、中央の通りへのつながり、水辺の関係、液状化などの安全安心の防災的視点が増われれば、トレースに深みが出る。

また、この「20世紀のトレース」が、貯木場や木材業の暮らしを劇的に変化させ、まちづくりの手法や建築の細部に至るまで影響を及ぼせば、提案により厚みが増す。

(審査委員：鳴海 雅人)